



令和8年産

きらみずき通信 第2号

令和8年6月26日
湖東農業農村振興事務所農産普及課
(TEL 0749-27-2228)
JA東びわこ営農振興課
(TEL 0749-28-7851)

**穂肥は窒素成分6kg/10aを基準に
2回に分けて施用しましょう！
1回目は7月7日頃(5月10日植)が目安です！**

1. 湖東地域の「きらみずき」生育状況

- 分げつが確保できたほ場では、中干しが始まっています。
- 5月は気温が高く、日照時間が多く、降水量が少なく推移し、水稻の活着や生育は順調に進みました。6月に入ってやや鈍化していますが、平年より生育はやや早く、草丈は同等、茎数は多い状態です。
- 6月中旬の高温の影響により、一部ほ場ではガス湧きが発生しています。還元障害が見られる場合は速やかに干しましょう。



6月18日時点の生育(多賀町)

【6月18日 生育調査結果】

ほ場の場所	前作	基肥	移植日	栽植密度 (株/坪)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD値)
多賀町	水稻	有機アグレット727	5/17	63	33.9	440	39.1
愛荘町	水稻⇒レンゲ	緑肥 + 有機アグレット727	5/22	52	32.5	226	40.2
(参考) 農術C作況調査 (安土町大中) (6/19調査)	水稻	有機アグレット666	5/11	62	38.7	450	36.6

葉いもちの発生がないか確認してください！

- 「きらみずき」栽培では殺菌剤が使用できません！
- ケイ酸質肥料の施用や、畦畔除草で風通しを良くするなど、蔓延しにくい環境を作りましょう。
- 葉いもちの発生が多い場合は、穂肥の施用を1週間程度遅らせ、葉色が濃くなりすぎないようにしましょう。



2. 穂肥の施用

- 窒素成分6kg/10aを基準に2回に分けましょう！
- 高温下でも登熟後半まで栄養状態を維持するため、**減肥せず基準量を施用しましょう！**

- ・ 有機質肥料は肥効が発現するまで一定の期間を要しますので、施用が遅れないように注意が必要です。
- ・ 穂肥1回目は幼穂形成期(幼穂長1mm)の1週間前頃、2回目は1回目の2週間後に施用します。

《穂肥時期と施用量の目安》

移植日	穂肥 1回目	穂肥 2回目	1回あたりの施用量 (/10a)
	時期 (※1)	時期 (※1)	
5月10日	7月7日頃	7月21日頃	有機質肥料で窒素成分3kg (肥料の例) 有機アグレット727 : 40kg ハイグレード有機11号(※2):30kg
5月20日	7月11日頃	7月25日頃	

※1 今後の天候や地域によって前後する可能性があります。
※2 「ハイグレード有機11号」はオーガニック栽培では使用できないのでご注意ください。

3. 斑点米カメムシ類対策

- けい畔の草刈りは、①イネの出穂期2～3週間前(7月下旬)と、②出穂期(8月10～15日頃)の2回が効果的です！

- ・ ほ場周辺のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の誘因源となります。イネの出穂前後の時期は、イネ科雑草の穂を出させない管理を行いましょう。
- ・ 環境保全型農業直接支払交付金の「④総合防除」に取り組まれている場合は、けい畔の除草剤は使用できませんのでご注意ください。